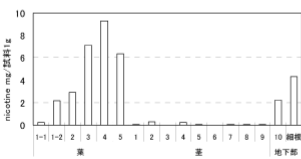


26PE-am001

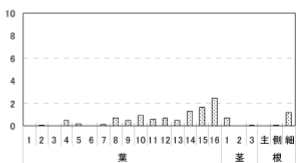
挿し木によるタバコの生育とニコチン量

○空閑 大一郎¹, 涌本 靖子¹, 矢部 亜矢子¹, 川西 和子¹, 守安 正恭¹(神戸薬大)

【目的】薬用植物の有効成分の含有量を増加させる栽培方法を検討する一環として、挿し木から生育したタバコのニコチン含量を播種から生育したそれと比較した。【方法】挿し木から生育したタバコ（茎の直径：2.5cm）を採取し、根、茎、葉に分けた。それぞれ80%メタノールで室温抽出した。ニコチン含量はHPLCを用いて測定した。播種から生育したタバコ（茎の直径：3.0cm）も同様に分け、ニコチン含量を測定した。【結果・考察】挿し木した茎は下位部分の茎8および茎9に相当し、茎7から上位は挿し木によって生育した。茎6および7には葉はつかなかった。茎10に相当する部分は地下部で生育し、その末端からは細根であった。播種から生育した葉は節ごとに頂端から1,2とし16までであった。茎はそれらを3つに分け、頂端から1,2,3とし、根は主根、側根、細根とした。図に示すように挿し木から生育した葉のニコチン含量は播種からのものに比べ4倍以上、細根においては3倍近く増加した。挿し木の効果をさらに検討している。



挿し木



播種